科目名	国際情報論特殊研究	担当者	川又（カワマタ）　祐（ヒロシ）	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	本講座は、財政学の源流の一つであるイギリス財政思想とドイツ財政思想を中心に、財政思想の生成・発展に関する歴史を習得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。
到達目標	【一般目標（GIO)】 イギリス財政思想とドイツ財政思想の比較を通じて、両者の相違点を理解する。 【行動目標（SBOs)】 ①学修者が財政思想に関する知識を列挙し，それぞれの知識を関係づけて理解する(知識) ②個々の財政思想家について調べた知識を活かして深く考えることで理解は一層明確になり，自ら使うことができる技能に高める(技能) ③財政理論と現実社会の背景にある考え方を応用的に適用することで，財政の諸課題に対応できる配慮ある行動となる(態度)
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 各自が教材以外の関連書籍を探し，新聞・ネットメディアなどの記事のほか，図書館の公表原典資料などにもアクセスしていく必要がある。学術書や論文などの幅広い情報源を活用することが望まれる。 教材精読のみであれば数日もあれば読めるものであるが，内容を理解し，具体的な考察を自らやってみることで身につくものであり，その3～5倍の時間は取って，しっかり身に付けるだけの準備を行うことを期待する。 【準備学修項目と準備学修時間】 ① 基本教材を熟読したうえで，副教材も参考にしつつ，リポートドラフトを作成する（自習・リポート作成，SBO①②)【15時間/リポート1本】 ② 次に、学修支援者による初期の気づきを与えるコメント・指導に基づき，初稿を作成する（自習・リポート作成，SBO①②)【15時間/リポート1本】 ③ そして、より深い理解に到達するためのインタラクティブな学習の場（ディスカッション）となる「複数回の添削指導」を通じて，最終的にリポートを作成する。最終リポートに到達するまでには，与えられた課題以外に指示された追加資料を確認し，更に自主的に参考資料を探索するという自主的なインプットを行うことで，より深い理解に到達する（自主研究・リポート作成・ディベート，SBO②③④)【15時間/リポート1本】
スケジュール	①提出期限までに何度かmanaba folioを使って，考え方を確認・交換することで理解を深める必要がある。最低でも前後期とも課題提出期限1か月前までには初稿を提出すること。 ②受講開始後，課題へのアプローチ方法がわからず，初稿期限(提出期限1か月前)までに課題提出することが難しいと考えた場合には，早期に必要な質問をメールあるいはmanaba folioを使って連絡すること。効率的に学習に取り組むために，リポート作成前に，課題取組方針のすり合わせを行うことは望ましいことである。 ③最終稿の提出期限は学事暦に従う。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	80%	①教材の内容を修得し，その考えを踏まえて解答されているか ②自分の独自の考えを，相手に伝わるように解答できているか ③教材以外の資料を活用して解答しているか（加点項目）
	観察記録	20%	①最終提出までに複数回のリポート交換ができているか ②途中稿提出期限（最終提出1か月前）が守れているか（減点項目）

履修者への要望	英語、ドイツ語の辞書を常に携帯し、英語文献、ドイツ語原典に日頃から接していることが望ましい。また、リポートの作成に当たっては、後期課程にふさわしい腰の据わったものを作成してほしい。 履修登録後，速やかに学修計画のすり合わせを行うために，担当教員（川又）に連絡すること。

【リポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 池田浩太郎 大川政三 教材名： 『近世財政思想の生成 重商主義と官房学』千倉書房 1982 年 ISBN：978-4-8051-0440-8 税込み 3,850 円
	本書は、重商主義、官房学を中心として、その代表者たち（ペティ、ヴォーバン、ゼッケンドルフ、ホルニク、ユスティ、ゾネンフェルス、ダブナント、J. ステュアート）の原典を講読することで、彼らのおかれた時代背景、彼らに課された課題を明らかにする。
参考図書	ペティ『租税貢納論』（大内兵衛 松川七郎訳） 岩波文庫 1975 年 大倉正雄『イギリス財政思想史 重商主義期の戦争・国家・経済』日本経済評論社 2000 年 J. ステュアート『経済の原理』（小林昇監訳、飯塚正朝ほか訳） 名古屋大学出版会 1998 年 楠谷清ほか『財政学入門』八千代出版 2019 年
履修上のポイント	現代の財政は財政民主主義を理念としている。財政民主主義とこれらの思想家たちの考えを常に対比することで、イギリスとドイツ（オーストリアを含むドイツ語圏）の歴史の理解が深まる。
リポート課題 1	イギリス財政思想史のうちペティを取り上げ、彼のおかれた時代背景と彼の業績を説明しなさい。 **留意点**：他の思想家との比較を通じて、課題を説明すること。
リポート課題 2	イギリス財政思想史のうち J.ステュアートを取り上げ、彼のおかれた時代背景と彼の業績を説明しなさい。 **留意点**：他の思想家との比較を通じて、課題を説明すること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 田村信一・原田哲史編著 教材名： 『ドイツ経済思想史』 八千代出版 2009 年 ISBN-10: 4842914688 税込み 3,630 円
	本書は、官房学から始まるドイツ経済思想の通史である。官房学では、官房学の代表者ゼッケンドルフ、ユスティ、ゾネンフェルスらが取り上げあれる。彼らの原典を講読することで、彼らのおかれた時代背景、彼らに課された課題を明らかにする。
参考図書	大倉正雄『イギリス財政思想史 重商主義期の戦争・国家・経済』日本経済評論社 2000 年 池田浩太郎・大川政三『近世財政思想の生成 重商主義と官房学』千倉書房 1982 年（基本教材）
履修上のポイント	現代の財政は財政民主主義を理念としている。財政民主主義とこれらの思想家たちの考えを常に対比することで、イギリスとドイツ（オーストリアを含むドイツ語圏）の歴史の理解が深まる。
リポート課題 1	ドイツ財政思想史のうちドイツ官房学を取り上げ、ゼッケンドルフのおかれた時代背景と彼らの業績を説明しなさい。 **留意点**：他の思想家との比較を通じて、課題を説明すること
リポート課題 2	ドイツ財政思想史のうちドイツ官房学を取り上げ、ユスティとゾネンフェルスのおかれた時代背景と彼らの業績を説明しなさい。 **留意点**：他の思想家との比較を通じて、課題を説明すること

基本教材１

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（財政民主主義）を行う
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換し、教材に基づく学修②（租税原則）を行う
第３回	教材１に基づく学修③（イギリス重商主義）
第４回	教材１に基づく学修④（W.ペティ）
第５回	教材１に基づく学修⑤（J.ステュアート）
第６回	教材２に基づく学修①（イギリスとドイツの財政思想の相違）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第７回	教材２に基づく学修②（前期官房学）
第８回	教材２に基づく学修③（V.L.v.ゼッケンドルフ）
第９回	教材２に基づく学修④（後期官房学）
第10回	教材２に基づく学修⑤（J.H.G.v.ユスティとJ.v.ゾネンフェルス）
第11回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第13回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材２

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（A.スミスおよび古典派）を行う
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換し、教材に基づく学修②（A.ワグナーおよび正統派）を行う
第３回	教材に基づく学修③（予算制度）
第４回	教材に基づく学修④（歳入）
第５回	教材に基づく学修⑤（歳出）
第６回	教材に基づく学修⑥（租税）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第７回	教材に基づく学修⑦（直接税と間接税）
第８回	教材に基づく学修⑧（ドメーネン）
第９回	教材に基づく学修⑨（レガリエン）
第10回	教材に基づく学修⑩（公需説）
第11回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第13回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する